

# 27年度 氷見市教育総合センターだより 第3報

## 学校経営研修会 期日：7月29日(水) 講師 市教育総合センター 教育専門員 山崎 外美雄 先生

「学校経営に生かす『今日的な教育課題と教育法規』」のテーマの下、過去6回にわたる学習指導要領の変遷や近年における教育課題を整理し、教育法規と関連付けて学ぶとともに、ミドルリーダーとして身に付けるべき資質について考えました。以下に研修内容の一端を紹介します。

＜最近の教育ニュースから考える＞

- ・約 60 年ぶりの教育委員会制度改革
- ・中教審が「道徳の教科化」を答申
- ・教科書採択ルールの特約化
- ・「小中一貫教育」の制度化
- ・親の年収と子供の学力の関係を初の全国調査で確認
- ・小学校でのいじめ、暴力事件が過去最高
- ・「国際教育指導環境調査」結果を公表
- ・性同一性障害の全国調査結果を公表

※ これらのことを教育法規や具体的な事例と関連付けて研修（「鳥の眼」と「虫の眼」で）

＜学力格差にどう向き合うか  
～「高い成果を上げている学校」の特徴＞

前川喜平文部科学審議官と耳塚寛明お茶の水女子大学教授の対談から

- ・家庭学習に対して教師が必ず読み、手を入れ、子供に返す。
- ・管理職のリーダーシップと同僚性の構築、実践的な教員研修。教科をこえた研究授業を大切にする。
- ・児童生徒の交流だけでなく、教育課程や学習習慣などの面で小中が連携する。
- ・ノート指導、書く指導に力を入れる。
- ・TT や少人数指導が全校で支持される風土をつくる。等


### 機動的な組織 凍としたリーダーを求めて

- ① 前例があるか？儲かるのか？からの脱却
- ② 職員のプライドを大事にした経営方針
- ③ 危機意識のなさ、情報共有がなされていないことからの脱却
- ④ 自らが犯した犯罪に対して反省の意識がない青年への、裁判長の異例の説諭と見識 等

## 仲間に学ぶ研修会 期日：7月29日(水) 講師 氷見市立窪小学校 教諭 干場 恵利華 先生 氷見市立西條中学校 教諭 黒田 雄一郎 先生

20代～30代の教員が先輩教員から学ぶ研修会を行いました。干場先生からは「自己有能感を育てるユニバーサルデザインの在り方」、黒田先生からは「グループアプローチの実践」と題して、大学院研修や内地留学等で学ばれた内容の一端を実践的な演習を交えながら話していただきました。研修参加者の感想を紹介します。

「自己有能感を育てるユニバーサルデザインの在り方」から



- ・具体的な子供の姿を挙げて説明していただきとても分かりやすかったです。困り感をもっている子供に寄り添ってあげることができたいと思いました。
- ・学級の中の「気になる子供」を教師は困らせる子供だと思いがちですが、その子供の SOS だということが心に残りました。

「グループアプローチの実践」から



- ・グループエンカウンターでは、相手の考えていることを読み取る（考える）ことの大切さを学びました。
- ・カウンセリング指導員のコーディネーターとしての位置付けがとても分かりやすかったです。SGE もとても楽しく、グループの雰囲気が和やかなものとなりました。

## 確かな学力を身に付けた生徒の育成 - 「とやま型学力向上プログラム(Ⅱ期)」の推進を通して -

氷見市立十三中学校

### 1 研究の視点と実践内容

#### ○視点1 「とやま型学力向上プログラム(Ⅱ期)」を踏まえた授業の改善

##### (1) ねらいを明確に意識した授業の構想

ねらいを達成できるような学習課題を設定し、板書計画を立てた。学習課題の表示方法を全教科で統一し、授業の流れを示すことで、生徒にねらいを明確に意識させ、一時間の見通しをもたせた。

##### (2) 学び合いを重視した指導過程の工夫

学び合いの形態を整理し、本時のねらい達成に最も有効な形態を選択し、実施した。

##### (3) 終末における学習成果の確認と次時につながる意欲付け

学習成果の確認方法を整理し、教科の特性や本時の学習に応じて選択し、実施した。

#### ○視点2 授業力向上のための教師同士の学び合い

##### (1) 校内研修体制と研修機会の充実

- ・ 校内授業研究会の実施(全教員対象)と事後研修会の充実

指導案の「指導上の留意点」において、視点1の(1)(2)(3)に関わる部分に下線を引き、授業者も参観者も意識するようにした。事後研修会では、短時間で効率よく、焦点をしばった話し合いができるように、付箋を用いた集団リフレクション形式で授業検討を行った。

- ・ 学力向上講演会の実施

退職された校長先生を講師として招聘し、実体験に基づく具体的でより実践的な学力向上策について話を聴く機会をもった。

##### (2) 小中連携による幅広い学び合いの推進

教師同士の学び合いを異校種にも広げ、校区の小中学校との間で互いに授業を参観し、協議会にも参加した。校種を越えた情報交換や指導方法の改善に関する話し合いができた。

#### ○視点3 学習内容の振り返り強化

##### (1) 確認テストの実施

「朝学習タイム」を校時表に位置付け、毎日一教科ずつ「確認テスト」を実施した。教科担任が作問からテスト監督、採点、個別指導まで一貫して行い、一人一人の生徒の学習状況を把握し、授業に役立てた。



(確認テストの様子)

##### (2) 目的を明確にした家庭学習

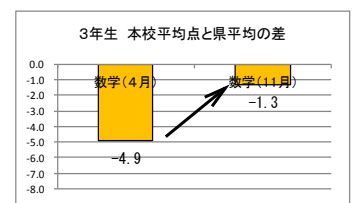
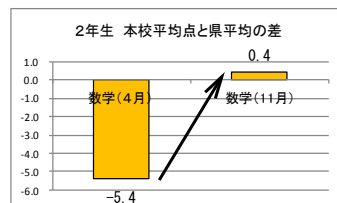
学習内容を確実に定着させるために、毎日プリントを出したり、自主学習ノートでの授業の復習を促したりして、家庭学習の充実を図った。自主学習ノートについては、「確認テスト」に向けて上手にまとめている例を紹介するなどして、活用のポイントを具体的に示した。また、学年懇談会で保護者に取組状況を説明し、家庭学習の時間確保等に協力をお願いした。

### 2 研究の成果と課題

#### 【成果】

平成 26 年度の中教研学力調査の 4 月調査と 11 月調査で、本校の平均と県平均とを比べると、どの教科も差が縮まっており、中には

県平均を上回ったものもあった。



(例：数学科)

#### 【課題】

確かな学力の定着に欠かせない「目的を明確にした家庭学習」では、依然として課題が残り、生徒の意識改革を図るなど、まだまだ改善の余地がある。

## 第1回「氷見市いじめ問題対策連絡協議会」開催

氷見市いじめ防止基本方針に基づき、法務局、児童相談所、警察、地域・民間団体、福祉の専門家、学校、教育委員会等、児童生徒を取り巻く関係者による見出しの協議会が開催されました。

事務局からは、①平成26年度におけるいじめ防止の取組について、②関係機関及び団体等との更なる連携について、③平成27年度の取組（10月いじめ対策強化月間）について説明し、出席者から貴重な情報や意見をいただきました。

### 【連携について】

- ・外部機関等との日頃からのつながりが重要である。できることは今から始めたい。
- ・親のネットワークが重要である。トラブル防止に親同士の顔の見える関係が大切である。
- ・親が子供の変化に気付くよう、コミュニケーションが重要である。
- ・いじめのアンケートを活用することや実態を把握し理解を深める機会をもつことが重要である。
- ・学童保育など子供と関わる関係者が集まり、自由に意見交換をする機会を大切にしたい。

### 【ネットトラブルについて】…（法務局 武部支局長より）

- ・児童生徒のネット使用状況の把握やそれによって派生してくる問題の認知が難しく、対応が後手に回ることが多い。ネットの使用実態を知る保護者との協力が大切である。
- ・犯罪に巻き込まれることもあり、喫緊の課題である。

### 【講義】…（西部教育事務所 六渡生活指導主事より）

- ・児童生徒の意識調査によると、クラスで一番大切なことは「空気」（教室の雰囲気）である。
- ・児童生徒の「サイン」が見られたら面談するなど、真っ先に対応することが重要である。
- ・児童生徒にとって、居場所を失うことが一番つらいので、教師間の情報交換を密にして居場所づくりに努める。
- ・いじめアンケートは、その後の対応が重要である。形式的に行うのでは意味がない。

## DVD 紹介 ※9月上旬まで貸し出すことができます。センターに連絡ください。

### インターネットの向こう側 [企画政策 法務局人権擁護局 財団法人 人権教育啓発推進センター]

このビデオは、中学生、高校生たちにインターネットにおいて生じる人権に関する課題の本質を把握してもらうとともに、その対処法や被害にあった際の相談方法などの必要な情報を盛り込み、併せて周囲の大人にも問題点を提示し、理解してもらうことを目的としています。

## ふるさと学習研修会

期日：8月4日(火)

### 氷見漁港・魚々座・市立博物館・氷見の先人（斎藤弥九郎）について

新規採用教員、転入教員、希望者等を対象に市内の主な施設等を見学し、郷土に対する理解を深めるとともに教材としての活用方法を探るための研修会を行いました。研修参加者の感想を紹介します。

- ・普段自分が口にする魚がどのように処理され、どのような工夫があるのかを知り、おいしいものが、おいしいままで食べられることに感謝したいと思った。これからも、地域のよさを子供たちと共に学びたいと思った。
- ・実際に見たり触れたりすることの大切さを改めて感じた。子供たちにもそのような機会を提供できるよう、様々な機関と連携したいと思った。
- ・もっと氷見のことについて子供たちに触れさせたいと思いました。博物館などの施設や地域の先人など、氷見に詳しい方々との関わりを大切に授業を考えていきたいです。
- ・自然を守る配慮がされて漁法が発展してきたことに、氷見の人々の温かさを感じた。



## ALT ジョセリンさん、ブレンダンさん ありがとうございました

英語や外国語活動で指導していただいたALTのジョセリンさん（2年間）とブレンダンさん（1年間）が、7月末で勤務を終え、帰国しました。ジョセリンさんは結婚し、翻訳の仕事を目指します。ブレンダンさんは、法律の勉強をして弁護士を目指します。二人からメッセージをいただきましたので紹介します。

### ジョセリン・ボートナーさんからの言葉



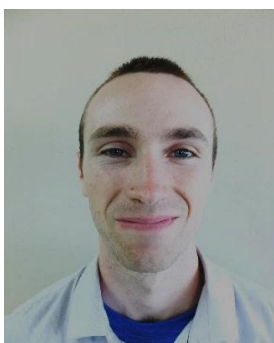
Hello everyone!

I've had so many amazing experiences in Himi these last two years. I'm going to miss the festivals, the beautiful view of Tateyama across the ocean and the delicious food, but I'm especially going to miss the people. Everyone has been so kind to me, and I've met so many wonderful students and teachers at

school. I'll never forget all of your smiles and hellos and high-fives.

Even though I'm sad to leave, I'm also looking forward to my new life in America. This fall, I'm going to finish my Japanese Studies degree and next year, I'm going to go to graduate school to study Japanese translation. I'll also be getting married soon, which is very exciting! I'll never forget my life in Himi and I hope to visit again someday. Thank you so much for everything and let's meet again in the future!

### ブレンダン・スウィーニーさんからの言葉



Hello, Everyone! It has been a great year and I am very sad to be leaving Himi. I will be returning to Boston this summer. I am going to Law School starting in September. I have learned so much in Himi. Himi has become my home in Japan and I will be very sad to leave. Everyone has been so nice to me and helped me so much. I want to say thank you to everyone I have met in Himi. I will

remember all of the students and teachers I have met here for a long time. I will miss you all so much, and I hope you have a great time with the new ALTs.

大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

Brendan

ブレンダン